

03

旧車・希少車を愛する 修理工場オーナーの、 熱き職人魂に触れる!

Photo: Naoki Mizuno



キャリア30年。代表の要 勝利さん。

海側環状沿いに車を走らせていると、癖も二癖もある車がずらり並んでいる修理工場を発見! その名も「ガレージカナメ」。なんでも、60年代から90年代の欧州車、旧車、希少車を中心に取り扱い、修理しているとのこと。早速、足を運んでみることに。快く迎えてくれた代表の要勝利さんに色々お話を伺ってみました! (ラヴマネ)

でも、これほど旧車・希少車にこだわった工場は少ないですよな? (要) そうですね。やっぱり、手間がかかるんですよ。同じ車の修理でも、まず部品を手に入れるところから始めないといけない。あんまり走っていない車は、部品だつて簡単に見つかりません。部品つを海外から輸入するため、2~3ヶ月、車をお預かりしなければならぬこともしばしば。そんなことしていると儲かりませんよな(笑)。で、結局、みんなやりたがらないんじゃないでしょうか。

編じゃあ、なおさら、なぜ?

要まず、シンプルに、旧車が好きなんですよ。で、みんなにもクラシックカーに乗ってもらいたいなあ、とよく「旧車はすぐ壊れるから」とか「修理やメンテナンスが大変そうだから」とか、もちろん、ある意味その通りなんですけど、それだけで乗るのをあきらめる人がいたら、そんな人たちのチカラになりたいんです。それで旧車のオーナーさんを増やしていきたいって気持ちはありますな。

編要さんにとって、この仕事をする上での最高の喜びはなんですか?

要他の工場で修理を断られ、お客さんに「助けて欲しい」と言われた車の修理は燃えますね、やっぱり。それで、大変な思いをして、なんとか修理をして、例えば、エンジンがかかった瞬間。これがサイコーなんです!

「ガレージカナメ」で発見した旧車・希少車コレクション



Pick up

**ランチア
フルヴィアクーペ**
1967年式

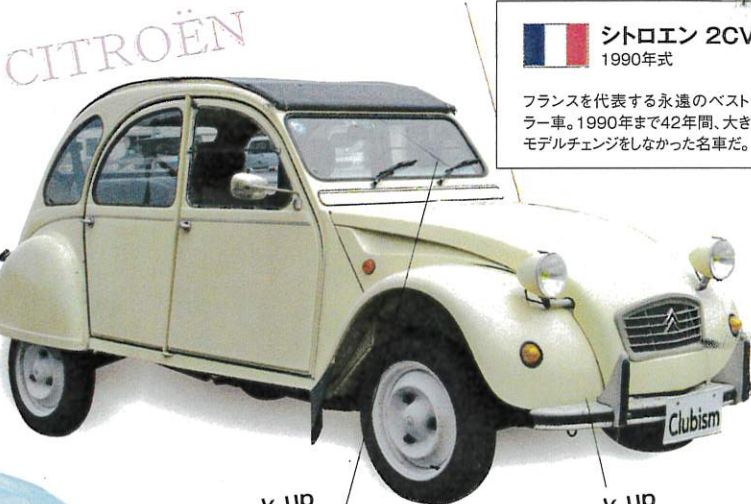
国際的なラリーに参加したことで世界的に有名になった車種。1963年から1976年までイタリアで製造された。

シンプルながら洗練味を感じさせるテールランプにもこだわりがある。



Pick up

ウツクシで上品な
インテリアが魅力的。
外見だけでなく中もおしゃれ。



シトロエン 2CV
1990年式

フランスを代表する永遠のベストセラー車。1990年まで42年間、大きなモデルチェンジをしなかった名車だ。



Pick up

極限まで削ぎ落とされた
シンプルな内装にもポ
リシーが感じられる。



Pick up

日本のあるメーカー
がお手本にした水平
対向2気筒の
高性能エンジン。



LANCIA

Clubism

ガレージカナメ



金沢市畝田中3-563
☎076-236-2603
営/9:30~18:30
休/不定休
http://www.g-kaname.jp



ミツオカ マイクロカー
1999年式

日本初の自分で組み立てる車として販売された。エンブレムは遊び心を効かせて。



サーブ97 ソネットIII
1971年式

直線的なラインを用いたシャープなボディが採用されたレアなスウェーデン車。



**ウエストフィールド
ロータスセブン レプリカ**
1990年式

かつてイギリスの「ロータス」社が生産・販売していたスポーツカーのレプリカタイプ。